

[成果情報名] 茶優良品種「さきみどり」、「ふうしゅん」に適した栽植密度

[要約] 樹姿が中間型の「さきみどり」に適した栽植密度は株間 60cm、条間 60cm で、やや直立型の「ふうしゅん」では株間 60cm、条間 50cm である。また、「さきみどり」は株間 75cm、条間 50cm として栽植密度を慣行より 20%削減しても生葉収量が同等である。

[キーワード] さきみどり、ふうしゅん、栽植密度、株間、条間

[担当] 長崎県農林技術開発センター・果樹・茶研究部門・茶業研究室

[連絡先] (代表) 0957-46-0033

[区分] 茶

[分類] 普及

[作成年度] 2016 年度

[背景・ねらい]

茶業経営では、「やぶきた」偏重による摘採期間集中や茶樹の老木化による生産性低下への対策が課題となっており、優良品種への改植が推進されている。また、茶市場、茶商等の実需者は、高品質なリーフ茶や、原料茶を多量に生産するために多収性品種も求められている。それらに対応するために、本県では、葉緑素が多く、多収性の「さきみどり」と多収性の「ふうしゅん」を平成 21 年に認定品種とした。ここでは、これらの品種の樹姿等の特性に適して、増収する栽植密度を検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 樹姿が中間型の「さきみどり」では、条間を 50cm から 60cm に広げると、年間生葉収量が増加する (図 2)。
2. 「さきみどり」では、株間を 75cm に広げ、栽植密度を慣行の 80% (1481 本/10a) まで減らしても、慣行と同等以上の生葉収量であるが、株間を 90cm に広げて栽植密度を慣行の 67% (1285 本/10a) に減らすと年間生葉収量は少なくなる (図 2)。
3. 樹姿がやや直立型の「ふうしゅん」では、株間が 60cm の場合に条間を慣行の 50cm から 25cm や 60cm とした場合、年間生葉収量が減少する (図 3)。
4. 「ふうしゅん」では、条間 50cm の場合に株間を慣行の 60cm から 75cm に広げ、栽植密度を慣行の 80% (1481 本/10a) まで減らすと年間生葉収量は減少する (図 3)。
5. 一番茶荒茶品質は「さきみどり」、「ふうしゅん」とも栽植密度による差は見られず、同等である (表 2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 二条千鳥植え、畝幅 180cm で行った試験結果である。
2. 試験園の年間施肥は県基準技術に沿って行った。また、2 t/10a の堆肥を冬期に施用した。

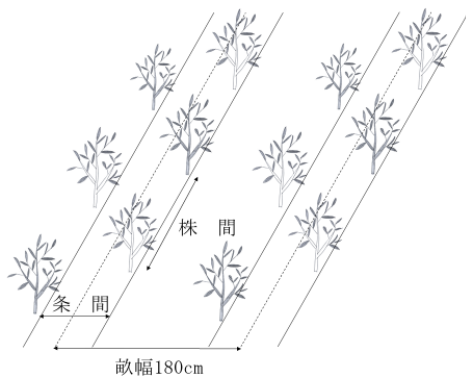


図 1 二条千鳥植栽方式 (畝幅 180cm)

表 1 試験園の栽植密度構成

品種	No.	慣行からの変更点	栽植密度				
			条数	株間 (cm)	条間 (cm)	(本/10a)	畝幅 (cm)
さきみどり	①	条間のみ拡大	2	60	<u>60</u>	1852	180
	②	株間のみ拡大	2	<u>75</u>	50	<u>1481</u>	180
	③	株間拡大+条間縮小	2	<u>90</u>	<u>25</u>	<u>1235</u>	180
	④	慣行	2	60	50	1852	180
ふうしゅん	①	条間のみ拡大	2	60	<u>60</u>	1852	180
	②	株間のみ拡大	2	<u>75</u>	50	<u>1481</u>	180
	③	条間のみ縮小	2	60	<u>25</u>	1852	180
	④	慣行	2	60	50	1852	180

注 1) アンダーラインは慣行からの変更点

[具体的データ]

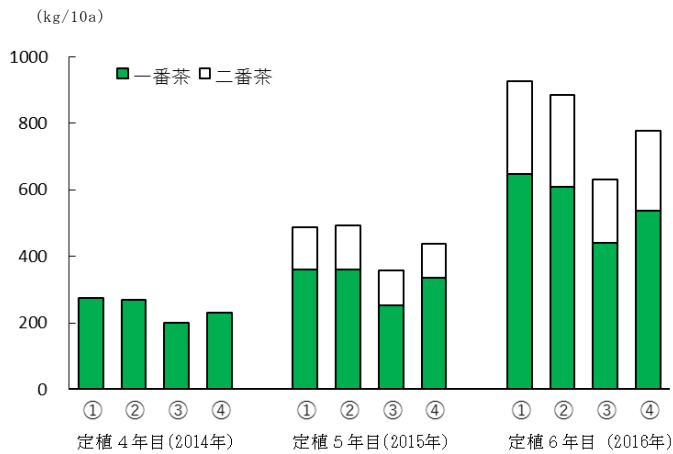


図2 「さきみどり」の栽植密度と生葉収量の推移 n=6

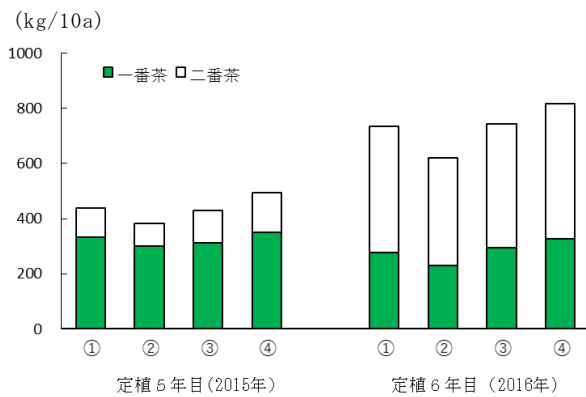


図3 「ふうしゅん」の栽植密度と生葉収量の推移 n=6

表2 一番茶荒茶品質 (定植6年目)

品種	No.	栽植密度			荒茶審査結果					
		株間 (cm)	条間 (cm)	(本/10a)	形状	色沢	香氣	水色	滋味	合計
さきみどり	①	60	60	1852	13.5	13.5	14.0	15.0	14.0	70.0
	②	75	50	1481	13.5	13.5	14.0	15.0	13.5	69.5
	③	90	25	1235	13.0	13.5	14.0	15.0	13.5	69.0
	④	60	50	1852	13.0	13.5	14.5	15.0	14.0	70.0
ふうしゅん	①	60	60	1852	13.5	13.5	13.5	15.5	14.0	70.0
	②	75	50	1481	13.5	13.5	13.5	15.5	14.0	70.0
	③	60	25	1852	13.5	13.5	13.5	15.5	14.0	70.0
	④	60	50	1852	13.5	13.5	14.0	15.5	14.0	70.5

注1) 製茶は、カワサキ製2K製茶機を用いて行った。

注2) 各項目20点満点で4名の審査員による合議制で審査を行った。

[その他]

研究課題名：茶優良品種の育成期間における栽培方法の確立

予算区分：県単

研究期間：2012～2016年度

研究担当者：池下一豊、太田久